

番号	8		事業名	道路改築		市町村名	天龍村～飯田市		路河川名	(国)418号	箇所名(ふりがな)	十方峡(じゅっぽうきょう)バイパス				
事業計画時の課題・背景及び事業経緯	(国)418号は岐阜県から長野県に入り、平谷村で(国)153号、阿南町で(国)151号、飯田市南信濃で(国)152号(三遠南信自動車道の現道活用区間)に接続する、下伊那郡南部地域を東西につなぐ唯一の幹線道路である。また、遠山地域では、他地域にある学校や病院などへ通うために不可欠な道路であるなど、地域によって生活に密着した道路としての重要な役割を担っている。 しかしながら、天龍村平岡から飯田市南信濃に向かう途中の旧JRTトンネルを利用した十方峡トンネルでは幅員が狭いため、信号機による交互通行規制を行っていたほか、南信濃側出口では鉄道高架橋による高さ制限など、(国)418号における最大の交通ネック箇所となっていた。 さらに豪雨の際には道路に沿って流れる遠山川が氾濫し、道路が冠水して通行不能となることが度々起こり、また、平成22年7月の梅雨前線豪雨による土砂流出や度重なる落石による通行止めも起こっていた。これら道路の不通を解消させ、地域住民の生活の安心と安定を確保することが地域全体から強く望まれていた。													事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化(A:環境がよくなった B:大きな影響なし C:影響が大きい)	評価	
	②事業実施に伴う自然環境・生活環境等の変化 ・トンネル及び橋梁の採用により、地形の改変を極力低減し、工事期間中も騒音・振動等環境影響に配慮したことで環境省レッドリスト絶滅危惧IB類(EN)であり天龍村の村鳥でもあるブッポウソウ等生物環境や自然環境へ大きな影響はなかった。事業後の渡来・営巣も確認された。 ・道路改築により生活道路としての快適性・安全性が確保され、特に高齢化率が高い当地域は生活環境が大幅に改善された。 ・道路改築により冬期間の交通が安定的に確保され、冬期の生活環境が大幅に改善された。													A		
事業目的	道路やトンネル、橋梁の幅員の狭い区間や落石危険箇所などを迂回するバイパス整備により、安全で円滑な交通の確保することを目的としている。													施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切)	評価	
事業概要	当初工期(H18再評価時)	H9～H24		費用対効果(当初時)	1.5(残事業)	事業費(千円)		財源内訳(千円)					③施設の維持管理状況 施設の維持管理状況(A:地域の人たちの参加あり B:適切 C:やや不十分 D:不適切) ・道路パトロールを毎週1回行っており、良好な状態の確保に努めている。 ・トンネル、橋梁区間が大半となり道路法面の落石・崩壊が無くなるとともに冬期間の除雪作業効率も向上。 ・地域住民参加による道路環境の向上に取り組んでいる。(年に複数回「天龍ピカピカ大作戦」により地元小学生、企業、団体参加)	A		
	最終工期	H9～H26		費用対効果(評価時)	0.7	上段:当初/下段:最終( )は国補事業分内数	国庫	その他	県債	一般財源						
	当初計画内容(H18再評価時)(主な工種)	道路築造工 L=1,810m W=6.5(9.0～11.0)m トンネル3箇所 橋梁3箇所				6,936,000 (6,170,000)	3,393,500	766,000	2,498,850	277,650						
	最終事業実績(主な工種)	道路築造工 L=1,810m W=6.5(9.0～11.0)m トンネル3箇所 橋梁3箇所				6,684,000 (5,918,000)	3,254,900	766,000	2,396,790	266,310						
事業期間の延長、短縮理由と分析	・2工区の藁野トンネルについて、当初はH24までの工事完了予定であったが、坑口部分の用地取得に不測の日数を要したため着工に遅れが生じてしまい、坑口の取付工を含め完了に約2年の遅れが生じてしまった。													④地域住民等の評価	・飯田市南信濃から天龍村へ毎日通勤しているが、道路が整備されたことにより、雨や雪の日も安心して運転できるようになった。また、距離短縮と勾配が緩くなったことで車の燃費もよく、生活面で非常に助かっている。(通勤利用者) ・以前は1車線の隧道を信号機で交互通行しており、また狭い道を大型車とすれ違うことも多々あり移動時間を要する区間であったが、本事業による2車線化により所要時間が短縮されたとともに、安全安心に通行できる路線となった。(天龍村役場関係者) ・病院や駅までの移動時間が短縮され、生活道路として利用しやすくなった。(飯田市南信濃地区住民)	
事業費(予算)の増加、縮減理由と分析	・清水トンネル施工の終点側坑口において、当初想定していたより岩質が良好で安定した斜面を確認できたため、おさえ盛土による斜面対策を減じたことにより事業費を削減することができた。													改善措置の必要性	トンネル照明がLED化未実施のため、更新時にはLED化したい。	
①事業効果の発現状況	事業効果の発現状況(A:目的を超えた達成 B:達成した C:概ね達成)											評価				
	直接的効果(定量的・定性的)	・普通車のすれ違いが困難な区間(W=4.0m)や線形不良区間が解消された ・交通量が889台/日(H17)から1,026台/日(H27)に増加 ・落石、土砂崩落、河川増水時橋梁冠水による通行止めを解消し、地域住民の生活の安心と安定に寄与 落石、土砂崩落による通行止め 6回(平成12年から22年) ⇒ 0回(平成27年以降) ・飯田市(南信濃)地区から県立阿南病院、飯田市民病院へのアクセス性が向上 ・震災対策緊急輸送路(二次)に指定されており、改築により震災対策が強化 ・遠山谷～飯田市街地、天龍村～飯田市間のリダンダンシーの向上(ルート複数化)もあるのでは。											A			
		間接的効果(定量的・定性的) ※事業の主たる目的以外で地域社会への貢献状況	・遠山温泉郷を中心として、阿南町や天龍村の各観光地へのアクセス性の向上に寄与 遠山温泉郷の観光客数 8万1千人(平成26年) ⇒ 9万8千人(平成30年) ・天龍村平岡駅周辺の主要商業施設である榊龍泉閣の売り上げ向上に寄与 飲食部門の売り上げ金額 26.9百万円(平成26年度) ⇒ 29.5百万円(平成29年度)											建設部公共事業評価委員会の意見 交通量や観光業に一定の効果があり、災害等による通行止めも発生していない。また、地元住民との協働により維持管理もされていることから総合評価Aが妥当と判断する。	総合評価	A
														長野県公共事業評価委員会の意見 建設部公共事業評価委員会の意見が妥当と判断する。	県の評価案 妥当 評価監視委員会意見 妥当 評価の決定 A	

配点 ①(A:70点 B:55点 C:40点) ②(A:10点 B:5点 C:0点) ③(A:10点 B:5点 C・D:0点) ④(A:10点 B:5点 C:0点) 総合評価 A:75点以上 B:74点～50点 C:49点以下